
世界について知ろう

氏名	桑原 綾子
学校名	福島県立富岡養護学校
担当教科名	全教科
実践教科名	生活単元学習
時間数	通常学級3時間、 重複障がい学級1～2時間
対象生徒（学年）	中学部1～3年
対象人数	通常学級15名 重複障がい学級6名

I. 授業実践のねらい

本校は知的障がい養護学校である。児童生徒の障がいと能力に応じ、日常生活の基本的な生活習慣の確立を図り、社会自立ができる知識、技能、態度の育成に努め、豊かな心とたくましい生活力を身につけた人間を育てることを心がけた指導を行っている。

本学習グループは中学1年～3年生で構成されている。テレビや本、CDなどから、海外出身の歌手や歌に興味を持ったり海外のテレビ番組や外国語に興味を持ったりしている生徒が多くいる。その一方で、中学から本校に入学した生徒もいることから、これまで生活単元学習や社会科等での基本的な地理の学習経験は一人一人大きく異なる。

このような実態から、まず、本単元では身近な地理の学習から始め、日本国内、世界へと見方を広げられるよう段階を踏んでいく。基本的な地理が理解できることで、生徒はそれぞれの海外に対する興味をより広げて余暇活動を充実させることができると考える。また、本単元で取り上げる中国は日本から近く、福島県に住んでいる中国出身者も多い。世界の中から国を一つ取り上げて学習することで、日本と日本以外の国の共通点や相違点等を具体的に知ることができると考える。

指導に当たっては以下の点に留意したい。まず、地理への興味を高め、実際の場所と地図を結びつきやすくするため、自分の住んでいる周辺の学習から始める。また、生徒の実態が大きく異なることから、視覚的に分かりやすい写真を多く利用するようにし、同時に個別的に支援していくようにする。また、授業で使用した地図や写真は廊下に掲示して、授業後も生徒が自由に見られるようにしていく。

なお、本単元では生徒の実態に応じて自由に授業に参加できるようにしていきたい。

II. 授業の構成

時間	指導内容	指導のねらい
第1時	自分の住んでいる周りに何があるかな	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいるところに目を向けることができる。 ・自分の住んでいる周りに何があるか書いたり、言ったりすることができる。 ・日本の周りには多くの国があり、さまざまな人が住んでいることを知ることができる。
第2時	中国について知ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・中国について関心を持つことができる。 ・中国と日本の共通点や相違点を知ることができる。
第3時	餃子作り	<ul style="list-style-type: none"> ・中国について関心を持つことができる。 ・中国から伝わった餃子を教師や友達と作ることができる。

III. 授業の詳細

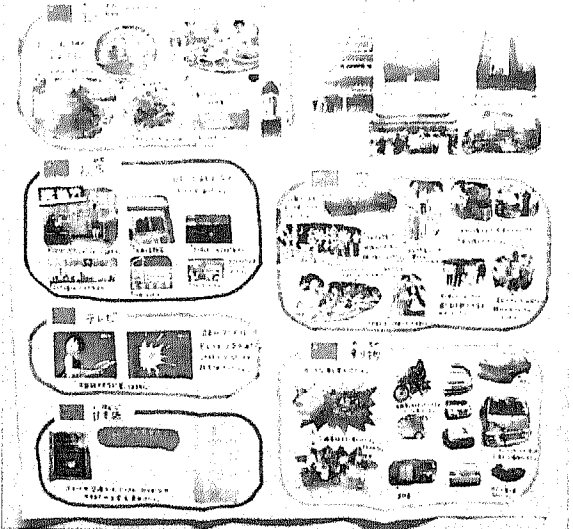
第1時	自分の住んでいる周りに何があるかな	通常学級 15名
学習活動		配慮する事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めの挨拶をする 2. 教師の自己紹介を聞く <ul style="list-style-type: none"> ・名前 ・家の周りにある建物の写真 ・家の周りの地図 3. 自分たちの住んでいるところや生まれたところの周りに何があるか考えて、シートに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・付近の商店の名前を挙げる。 ・付近の環境（川がある、木がたくさんある、等） ・家の周りの地図を書く。 4. 市町村について知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分の住んでいる市町村を挙げ、地図で位置を確認する。 ・そのほかに知っている市町村名を挙げ、地図で位置を確認する。 5. 都道府県について知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる県の名前と位置を考え、地図で確認する。 ・そのほかに知っている都道府県名を挙げ、地図で位置を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の知っていそうな商店の建物を見せることで、自分の住んでいるところの近くにある建物も挙げやすくする。 ・地図と実際の場所が結びつきやすくなるように、地図に写真を貼っていく。 ・T2～T4は生徒がシートに書きやすいように個別に支援する。 ・T1の住んでいる町を最初に知らせて、自分の住んでいる市町村名を挙げやすくする。 ・修学旅行で行った都道府県など、生徒が行ったことのある都道府県を思い出せるように支援する。

<p>6. 国について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の写真を見る。海を渡っていくとどうなるのか、何があるのか、考える。 ・自分たちの住んでいる国の名前と位置を考え、地図で確認する。 ・そのほかに知っている国の名前を挙げ、地図で位置を確認する。 <p>7. さまざまな国の人について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知っている外国人の名前や海外出身者の名前を挙げる。 ・どこの国か位置を確認する。 <p>8. 終わりの挨拶をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国名を挙げるのが難しい様子のときは、世界の国旗の本を見せ、聞いたことのある国名を思い出せるように支援する。 ・名前を挙げるのが難しい様子のときは、写真を見せたりテレビの話をしたりして、思い出せるように支援する。
---	---

<p>使用教材</p>	<p>福島県地図、日本地図、世界地図、ワークシート、建物や自然の写真、海外出身有名人の写真、世界の国旗の本、</p>
-------------	--

<p>授業の様子</p>	<p>私は普段、小学部に所属していることから、まず自己紹介から授業を始めた。その自己紹介の一部として住んでいるところの周辺にある商店や建物の写真を見せることで、生徒からも「そのお店、知ってる!」「うちの近くには、〇〇があるよ。」などの自発的な発言が多く見られた。家の近くにある建物を書いたり、地図を書いたりする場面では、集中して細かい地図を書く生徒もいれば、建物の名前を挙げるのが難しい生徒もあり、教師が個別的に支援をしながら、児童の実態に合わせて学習を進めた。</p> <p>都道府県名や国名を挙げる場面では、これまであまり地理的な学習をしてこなかった生徒からも予想以上に多く挙げられ、生徒の関心の高さを改めて感じた。また、普段は自分から発表をすることの少ない生徒が何度も手を挙げて積極的に発表する様子も見られた。同時に国旗の本も見せていき、カラフルな国旗に興味を持つ生徒もいた。</p> <p>海外出身の有名人を挙げる場面では、芸能人や歌手のほかに政治家の名前も挙げられた。さまざまな国出身の有名人の名前が挙げられたことで、世界にはたくさん国があってさまざまな人がいることが理解できたようである。</p> <p>授業後、授業で使用した地図をまとめて、廊下に掲示した。</p> <div data-bbox="367 1451 1369 1989" data-label="Image"> </div>
--------------	--

第2時	中国について知ろう	通常学級 15名 重複障がい学級 3名
学習活動		配慮する事項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めの挨拶をする 2. 前時の復習をする (パワーポイント) <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外出身の有名人と出身国を確認する。 ・ いろんな国があり、いろんな人がいることを確認する。 3. 中国について知る I (パワーポイント) <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国出身の女性の写真を見てどこの国の出身かを予想する。 ・ 中国の位置、大きさを知る。 ・ 中国のテレビや車、お店、トイレ、食べ物の写真を見て日本と似た部分や異なる部分を挙げる。 4. 中国について知る II <ul style="list-style-type: none"> ・ 中国の民族衣装を着たり、着ている友達の姿を見たりする。 ・ 中国の音楽を聴く。 ・ 中国語で書かれた本を見る。 5. 中国出身の人からのビデオを見る <ul style="list-style-type: none"> ・ 3で見た中国出身の女性からのビデオを見る。 ・ 餃子の皮の包み方を知る。 6. 次時の学習内容を知る <ul style="list-style-type: none"> ・ 教わった包み方で、餃子づくりを行うことを知る。 7. 終わりの挨拶をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ T2～T5は、前時の学習内容を思い出せるように生徒に言葉かけをする。 ・ 日本の何倍か大きさを比べやすくするように、日本地図も見せる。 ・ 生徒の興味を高められるように、テレビや車の名前などをクイズ形式で出していく。 ・ 民族衣装、音楽、本の3つのコーナーに分けて、生徒の興味に応じて自由に行き来できるようにする。 ・ 餃子屋を営む中国出身の女性のビデオを流す。 (中国語での自己紹介、日本語での自己紹介、餃子の皮の包み方説明) ・ ビデオを見て、中国から伝わった餃子を作りたいという気持ちになるような言葉かけをする。 	
使用教材	パソコン (パワーポイント)、プロジェクター、民族衣装、CD、CD ラジカセ、中国語で書かれた絵本、カメラ	
授業の様子	<p>前時の最後にさまざまな海外出身の人を見たことを復習として取り上げ、中国出身の女性の写真を見せ、そこから本時の中国の話へとつなげた。</p> <p>できるだけ日本と比較しやすいものを取り上げ、まずは日本で人気のアニメが中国で放送されていることなど、中国も日本と似ていると感じられるものを提示した。その中で日本では見かけない中国語の文字や中国の車のナンバープレートなど、小さな違いを見つけられるようにし、間違い探しゲームのような感覚で、違いを楽しめるようにしていった。生徒は自分の好きなアニメや車、商店、食べ物が見慣れているものと少し違うことに気づき、それぞれ友達や近くにいる教師と話をする様子が見られた。</p> <p>後半は実際に中国の文化に触れられるよう、民族衣装と音楽、中国語の絵本の3つのコーナーを作り、自由にコーナーを行き来した。チャイナドレスを着て写真を撮ってもらったり、中国語の挨拶を教えてほしいと聞いたりし、中国の文化に積極的に触れて楽しむことができたようである。</p>	

<p>授業の様子</p>	<p>最後に見た中国出身の女性のビデオは、中国語の響きや餃子を作る様子を知ることができるものであったが、生徒たちは細かな動きや日本語の話し方などにも着目し、とても印象深かったようである。</p>	 <p>授業で使用したパワーポイントを中心に、中国の様子をまとめて廊下に掲示した。</p>
--------------	---	---

<p>第3時</p>	<p>餃子作り</p>	<p>通常学級 15名 重複障がい学級 6名</p>
<p>学習活動</p>		<p>配慮する事項</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めの挨拶をする 2. 前時の復習し、餃子の皮の包み方を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・ 工程表を見る ・ 餃子の模型を見る 3. 餃子を作る <ul style="list-style-type: none"> ・ 用意された具を皮に包む。 ・ 餃子を焼く。 4. 餃子を食べる 5. 片付けをする 6. 単元を振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・ 餃子作りの感想発表 7. 終わりの挨拶をする 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に見たおばさんが餃子を作っている様子を写した工程表を提示する。 ・ 実際に紙でできた餃子の模型を見せて、作り方をよりイメージしやすくする。 ・ T2～T8は生徒に個別に支援をし、餃子の皮を包めるようにする。 ・ 手で包むことが難しい生徒には補助具を使用し、包めるようにする。 ・ 餃子を焼くときは、火や油に気をつけるよう生徒に言葉かけし、安全に留意する。 ・ 今日で単元が終わることを伝える。 ・ 単元で学んだことを振り返るような言葉かけをする。
<p>使用教材</p>	<p>餃子の皮、具、フライパン、皿、スプーン、フォーク、皮を包む補助具、工程表、餃子の模型</p>	
<p>授業の様子</p>	<p>普段から調理活動の好きな生徒が多くおり、この日の朝から餃子作りをすることを周りの教師に伝えてきたり、本時の始まる前から調理室に来て準備を手伝ったりし、楽しみにしていることが伝わってきた。</p>	

授業の様子

前時に、餃子屋を営む中国出身の女性のビデオを見たことから、中国から日本人に合わせた形で焼き餃子が伝わったということがおおまかに理解できており、本時はそのビデオと同じ様子を写した写真を利用し、餃子づくりの工程表とした。

手先が器用な生徒や細かい動きが苦手な生徒など生徒の実態が幅広いため、実態に合わせて教師が支援をしたり補助具を使用したりして餃子を作った。本時では餃子の具をあらかじめ用意しておき、皮につつまむことをメインの活動として行った。一人3個という数は少ないかもしれないと思っていたが、少ない個数で短い工程だからこそ、とても集中して餃子作りに取り組む様子が見られたのだと思う。餃子が出来上がると早速食べ、「おいしい。」「また作りたい。」という言葉がたくさん聞かれた。



餃子作りの様子

IV. まとめ

本単元では、1時間で身近な地理から世界の地理まで学習し、1時間で中国について知り、1時間で調理活動を行い、1時間1時間がとても中身の濃い時間と感じた。合計3時間であったが、この単元から各学級の実態や課題等に応じてまた次の単元へとつなげて発展することができると考えている。

今回、授業実践を行うにあたり、知的障がいのある子どもへの開発教育・国際理解教育とはなんだろうと考えるととても良い機会になった。これらの教育は、子どもたちにとってどんな意味があって、子どもたちの将来にどのように結びついていくのか、なかなか見いだせないこともあった。自国・自文化についてまだよく知らないのに、他国・他文化について学習を行うのは段階を間違えているかもしれないと思うこともあった。しかし、他国・他文化を知ってこそ自国・自文化の意識が強くなり、自国・自文化を知ろうとする意欲付けにもなるということもあるのだと思う。また、自文化と他文化を比較することで、違いの中にある共通点や共通点の中にある違いに気づくことができるようになる。そこから発展させて考えると、たくさんの選択肢の中で比較しながら自分が好きなものを見つけさらに知ろうと思うことが、自己選択・自己決定して物事を進めていく力につながると考える。また、好きではないと思っているものの中で好きな部分を見つけることが、人と人が互いを認め合うきっかけになると考える。

本単元においては、生徒のこれまでの地理の学習経験の差が大きいことが授業に影響すると思っていたが、実際行って見るとこれまでの地理の学習経験があまりない生徒であっても興味関心の高い生徒は既にさまざまな知識を得ているように感じた。しかし本学習グループでは、積極的に発表したり授業後に授業の掲示を見たりする生徒だけでなく、授業中に個別的な支援をしてもまだ世界について結びつきづらい生徒もいた。そういった生徒に対して何をどこまでねらうのか曖昧になってしまうことがあった。生徒の発達段階や個別の指導計画の目標を見ながら本単元における個別のねらいを決めて授業を進めることが大切だと感じた。

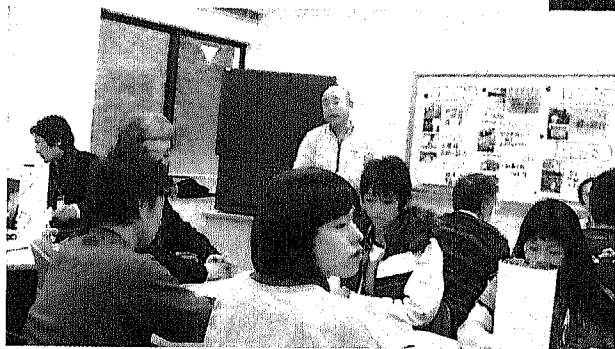
V. 参考資料

- 「世界がわかる国旗の本」 (学習研究社)
- 「図典日本の市町村章」 (小学館辞典編集部)



4. 帰国後研修

(ふくしまグローバルセミナー 2009)
実施報告



中国で深めた見聞の成果を生かし ふくしまグローバルセミナー2009で 「学び合い」

ふくしまグローバルセミナー

「ふくしまグローバルセミナー」は高校生以上の一般の方々を対象に、国際交流・国際協力・多文化共生・国際理解教育・開発教育について学ぶ参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介や様々な分野で活躍する団体や個人による国際協力現場レポートなど20を超える幅広い内容の講座から自由に選択して受講していただくことができ、参加者と講師がお互いに学びあうことを大切にしたセミナーです。

ふくしまグローバルセミナー2009

今回で通算13回目を迎え、22にもおよぶ講座に福島県内外からの高校生からシニア世代の方々まで149名が参加されました。

今回は参加者による自主セッションを取り入れ、参加者間の交流をより深めることができました。

平成21年度 教師海外研修中国派遣参加者5名の教師の方々は「近くて遠い国、隣国としての中国」と題して、1日目のセッション2（15：15～16：45）にて、90分の講座を行いました。

一般参加者19名を対象に、それぞれの視点を取り入れた現在の中国を伝えていただいた当日の様子をお届けします。

ふくしまグローバルセミナー 2009 講座の進め方案 (当初の案)

講座名	近くて遠い国、隣国としての中国	
担当者名/所属	平成21年度 JICA 教師海外研修中国派遣参加者	
講座のねらい	・中国って日本人にとってどんな国？日本って中国人にとってどんな国？中日・日中関係、このままでいいの？に一石、二石を投じる内容としたい。隣国・中国とのこれからの関係を一緒に考える講座とする。	
講座の流れ	<p>1 【アイスブレイキング】 ……10分 「中国について確認しチャイナ」 ①中国に行った事がありますか？ ②中国人の友だちや知り合いは、どのくらいいますか？ ③中国は好きですか？嫌いですか？ 会場の後ろの広い部分を使って、午後一番の眠気を感じさせないアイスブレイクを行います。③の質問で、会場の左側から好き、右に行くに従って嫌いと並んでいるので、左から「ち」「ゆ」「う」「ご」「く」とか決めていき、5つのグルーピングをします。</p> <p>2 【グループ内自己紹介】 ……5分 「グループのメンバーを理解しチャイナ」 各グループに研修生が一人ずつ入り、一人30秒ぐらいずつの自己紹介をし合う。</p> <p>3 【アクティビティ】 ……15分 「中国についての今のイメージを確認しチャイナ」 KJ法により、各グループ毎に中国に対する現時点でのイメージをまとめる。</p> <p>4 【学び合い①】 ……15分 「中国に対するイメージを共有しチャイナ」 各グループの中国に対するイメージを全体に発表し合い、参加者全体の中国に対するイメージを確認する。</p> <p>5 【学び合い②】 ……30分 「研修生とともに中国について自分の思っていること、考えていたこと、何でも話しチャイナ」 一人一人の中国に対する思いや考えを話す場。研修生はそれを受けて、中国での見聞きした体験をもとに話し合う。お互いの話し合いから今後の自分の考え方、生き方について何らかの成果が上がるようにする。</p> <p>6 【振り返り】 ……15分 「自分自身に中国（注目）！この講座に参加した成果を振り返り、中国に対する考え方を変えチャイナ！！！！！！！！！！」 外国なんて、中国なんて、あまり意識していなかった、が・い・こ・く、ち・ゆ・う・ご・く！！これからの国際理解、これからの考え方や生き方を確認します。好変化、前向きな考えが出てくる事を期待する。</p>	
取り入れる予定の手法や活動(アクティビティ)	上記のとおり	
使用予定の機材	○上記「5 【学び合い②】」の折にパソコンや写真等を使うかも知れないが、各自準備する。 ○KJ法を行う際の台紙(四つ切り画用紙)、付箋紙(なるべく大きめ)、マッキーなど筆記用具、ホワイトボード、CDプレーヤー	
現在抱えている課題等、皆さんと相談したいことなど	特になし	
事務局への質問・要望等	特になし	

ふくしまグローバルセミナー 2009 講座の進め方案 (実際に実施した企画)

講座名	近くて遠い国、隣国としての中国
担当者名/所属	平成21年度 JICA 教師海外研修中国派遣参加者
講座のねらい	・中国って日本人にとってどんな国？日本って中国人にとってどんな国？中日・日中関係、このままでいいの？に一石、二石を投じる内容としたい。隣国・中国とのこれからの関係を一緒に考える講座とする。
講座の流れ	<p>1 【アイスブレイキング】 ……10分 「中国について確認します！」 ①中国に行った事がありますか？ ②中国人の友だちや知り合いは、どのくらいいますか？ ③中国は好きですか？嫌いですか？ 会場の壁際の部分を使って、アイスブレイクを行います。③の質問で、左側から好き右に行くに従って嫌いと並んでいるので左から「ち」「ゆ」「う」「ご」「く」とか決めていき、5つのグルーピングをします。</p> <p>2 【グループ内自己紹介】 ……5分 「グループのメンバーはどんな人？」 各グループに研修生が一人ずつ入り、一人30秒ぐらいずつの自己紹介をします。</p> <p>3 【アクティビティ】 ……10分 「中国ってどんな国だと思う？中国についての今のイメージを出し合おう！」 KJ法により、各グループ毎に中国に対する現時点でのイメージをまとめます。</p> <p>4 【学び合い①】 ……10分 「中国に対するイメージを共有してみよう！」 各グループの中国に対するイメージを全体に発表し合い、参加者全体の中国に対するイメージを確認します。</p> <p>5 【学び合い②】 ……30分 「研修生とともに中国について自分の思っていること、考えていたこと、何でも話してみよう！」 一人一人の中国に対する思いや考えを話す場です。研修生はそれを受けて、中国での見聞きした体験をもとに話し合います。お互いの話し合いから今後の自分の考え方、生き方について何らかの成果が上がるようにしましょう。</p> <p>6 【学び合い③】 ……15分 「各グループの学び合いの成果を共有しよう！」 各グループの学び合いの成果を全体の場で発表し合い、参加者全体の成果として共有しましょう。</p> <p>7 【振り返り】 ……10分 「この講座に参加した成果を振り返り、中国や国際理解に対する考え方をまとめましょう！変化はあったかな？」 これからの中国理解・国際理解、これからの自分の考え方・生き方を確認します。好変化、前向きな考えが出てくる事を期待します。</p>
取り入れる予定の手法や活動(アクティビティ)	上記のとおり
使用予定の機材	○上記「5 【学び合い②】」の折にパソコンや写真等を使うかも知れないが、各自準備する。 ○KJ法を行う際の台紙(四つ切り画用紙)、付箋紙(なるべく大きめ)、マッキーなど筆記用具、ホワイトボード、CDプレーヤー
現在抱えている課題等、皆さんと相談したいことなど	特になし
事務局への質問・要望等	特になし

中国に対するイメージをグループ毎に出し合った後、みんなで共有しました

中国についてのイメージマップ1

- 課題（格差）○政治（共産党、人口が多い、一人っ子政策）○文化（漢字、難しい中国語、米、中華料理）○自然（国土が広い、黄砂、環境、大河）○歴史（南船北馬、万里の長城、北京オリンピック）○日本とのつながり（戦争、友好）

中国についてのイメージマップ2

- 民族（多民族、漢民族）○人の外面（スタイルがいい、足が長い）○人の内面（仏教、熱い、温かい、ハート、強気、商売上手、交渉上手）

中国についてのイメージマップ3

- 経済（BRICS経済発展中、伸び盛り、急成長、商売が上手、日本の電化製品が好き）○言葉（言葉が歌のように聞こえる、アイヤーとか〜ある。）○隣の国 ○人民服が作業服っぽくてとっても身近に感じる ○美食 ○歴史（三国志、歴史的な日本との関係、歴史がある、米国の低い文化の植民地になりつつある国、天安門のおぞましき、見栄っ張りの国、中華思想、CO2排出国）

中国についてのイメージマップ4

- 環境（自転車、スモッグ）○国民性（案外人なつっこかったりする）○人（人が多い、世界中にいる、多民族）○国土（大きい）○歴史（古い、漢字）○経済成長と格差（格差が大きい、貧富の差が大きい、国内格差=大きい国に共通の課題、経済そのうち世界一、経済成長、商売上手、眠れる獅子）○料理（飯がうまい）

中国についてのイメージマップ5

- 国が大きい ○人（人材豊か、人種のるつぼ、人口が多い、世界進出、世界中どこにでもいる、世界中に中華街・チャイナタウン、引かない、貪欲、日本人は下向き、中国人はひたむき、チャイナルール、モラルが違う、助け合い、勉強熱心、仕事に真面目）○格差（貧富の差、中国マフィア、乞食、ごちゃごちゃ、カオス、混沌）

中国についてのイメージマップ6

- 貧富の差が激しい、格差 ○多民族 ○国際貢献では遅れている ○人口が多い ○国土が広い ○長い歴史（シルクロード）○一党独裁、したたかな国、金のためならどんな悪いことでも政府、日本への憧れと憎しみ ○自転車が多い、長い長い鉄道、洪水、人民服 ○漢字の国、中学の英語のレベルが高い ○小柄、顔の感じが日本に近い、早口でよくしゃべりそう、武道が多い ○近い外国 ○料理がうまい ○経済の急成長（これからの日本が全てに無視できない国、将来は世界に一番影響を与える国になるだろう、オリンピック開催で急激に発展、バブルの前兆、大繁栄）

中国についてのイメージマップ（まとめ）

- 歴史（日本とのつながり）○政治（一党独裁）○経済（商売上手、繁栄）○人（人なつっこい、見栄っ張り、肝っ玉、格差、スタイル）○環境（スモッグ、モラル）○教育（勉強熱心）○民族（多民族、人口多い、世界中にチャイナタウン）○文化（アメリカの低俗な文化の植民地）○料理 ○交通（自転車、鉄道）

講座参加者の感想

- 政治面の現実（一党独裁）とバブルの前兆とさえ思われる加熱した経済情勢と人なつこく親切な一般国民とを同じ角度から見ることの怖さを改めて痛感しました。「木を見て森を見ず」的な姿勢が誤っていると知っていながら、イメージや思い込みによって、一方向からしか見ていない矛盾をたった今から正そうと思います。現地に何度も足を運んだ企業戦士の言葉通り、極端な正の部分と負の部分が混在して一つの中国と今は受け止めます。いずれにしても、これからの日本が全ての面で無視できない中国、近づく第一歩は人対人との交流以外にない。（MS）
- 中国人の方、中国に行ったことのある方、これから中国に行きたいと思っている方……そんな人々の話を聞き、接したおかげで「中国ってどんな国？中国人ってどんな人達？」そんな興味が一気に募りました。国という枠組み、国境というものは、所詮人間がつくりだしたものです。中国という枠で考える前に、個々の「人」を通じて感じていきたい。そんなことを思いました。（YM）
- 私は中国政府の政策はおかしいと思う。しかし、隣国として人と人とのつながりは大切で、困っていれば助け合うという精神は大切であると思う。今重要なのは、日本が変わることだと思っています。（SS）
- 「大きな国」中国、いろんな方のいろんな見方を知ることが少しであるができたように思う。どちらかといえば、苦手な国民性のイメージを持っているが、先入観を持たず、これからのつきあいに活かして行きたい。参加された人（全員）の話をもっと聞きたかったように思う。真の姿（裏側）を見る機会があんまりなかったというような話も聞いたので、研修の意味、やり方も見直せるのかなと思った。国やイメージで人を見ることなく、人と人として付き合っていきたい。（TT）
- 中国との未来を考えるよく考えられた90分だった。「若い人達がどう付き合うか」という意見が出た。自分も時々使うが、使い方によって「自分には関係ない、自分以外の若い人がやればいい」という悪い印象を受けることに気づいた。若くても年を取っていても自分のこととして考えたいなと思った。研修に参加した先生の意見が率直でおもしろかったが、主観が入りすぎ人が人に伝えるのは難しいもので……「中国はすごいけど……（→→）」という雰囲気の中でのグループワークになってしまいプラス（+）のイメージが持てなかった。出だして「中国好きですかきらいですか」の質問で、この講座のテンションが下がったのが一番大きいと思います。中国の経験で得たよいことを知ることができたらUP（←）したかも?! 変化はなかったが、自分の中にある中国を掘り下げたことはおもしろかった。（SS）
- イメージ、メディアからの情報で既に「作り上げられている」中国をどう見て、どう伝えるのか？そこが難しくもあり、楽しくやりがいもありそうですね。諸先生方にとって、伝え、還元することの楽しさ、大切さを学ぶ、考える機会になり得るのでしょうか。隣国であるからこそ、さらに大切な第一歩となりました。ありがとうございました。（YT）
- イメージと実際は違う。メディアによって作られるマイナスイメージなど先入観をできるだけ持たずに行くことが大事である。異文化理解→外国の文化と接することだけではない。自分の身近にいる人と接することも一種の異文化理解。（TM）
- （好き嫌い→関心度でやった方が良い。ち・ゆ・う・ご・く→自分で言わせた方が良い。）一方的な一部の情報だけで、その人やその国は○○○だと決めつけてしまうのはとてもキケン。まずは出会って、出かけてみて、機会があれば、ありのままを見て、感じたことを伝えたい。人はみんなちがうけどみんな同じ、ちゃんと向かい合って話せばきっと理解し合える。（SF）
- みなさんの振り返りを聞かせていただいて、講座の目的は十分に達成できたと思います。お互いの学び

- 合いができてよかったと思います。お疲れ様でした。(KK)
- 中国人は優しくて人なつっこいイメージがありましたが、とても勉強熱心で勉強をしないと仕事にも就けないというのが分かりました。日本の教育もこの中国の考え方を少し真似していけば学力が伸びると思う。(SW)
 - 中国に対する今までのイメージが広がった。国としてはマイナスのイメージもあるが、個人個人はやはりとってもいい人で、私たちは中国人と十把一絡げで判断すべきではないといつも思っています。グループでの話し合いは、経済のこと、政治のこと、教育のこと等、たくさんの学びがあった。中国から学ぶことがたくさんあることが分かった。(FK)
 - 中国に実際行ったことのある人の見聞きしたことや様々な意見が聞けておもしろかったです。中国のマイナスの部分もプラスの部分も理解し、今後国同士の付き合い方や個人での付き合い方を考えていきたいです。(CW)
 - 生の中国の話聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。(TS)
 - 中国についてぼくが行った時は、表の部分しか見て来れなくて、今回のお話はとても貴重なものでした。いろんな意見があり、もっと裏の部分もこれから知っていけたらなっと思います。(TS)
 - 中国人なので、この講座に参加しようと思ったのは、日本の方は、中国もしくは中国人のことをどのように思っているのかを知りたかったからです。この講座を通して、いろいろ話し合っ、すごくよかったと思いました。これからは日本と中国の交流をもっと深めてやっていきたいと思っています。両国の国民は、もっとお互いに相手のことを理解するようにしていきたいと思っています。(SW)
 - 隣国なのに中国のことを全然分かっていなかったことが、この講座に参加して分かりました。中国に行っって分かったこともほんの一部で、ますます中国に対する関心が湧いてきました。経済の発展が著しいのはうらやましいのですが、政治体制の違いなどでいろいろな問題が山積みになっていることを知るにつれ、日本に生まれてよかったと感じます。でも、そんな小っちゃなグローバル意識ではなく、世界のいろいろなことに興味と関心を持って理解していくことが大切だし、仕事の中で少しずつでもグローバル意識が高まっていくような取り組みが大事なのだと思いました。(TS)
 - 私の班にも、福島県の国際貢献リーダー養成講座で、ほぼ同時期に中国を訪れた方がいて話に厚みが増した。訪問したルートはほぼ同じではあったが、彼らの方があまり現地に触れることが少なかったとの感想があった。今回の私たちの行程は、中国の学校や児童・生徒との交流の機会は無かったが、現実の人々の生活に触れる機会もあり恵まれていたように感じた。話し合いの中で参加者から、中国に関するイメージ、それに対する感想などがたくさんでて、盛り上がりを見せたが、反面自分の用意したプレゼンテーションを見せる機会が無く個人の発表としては、不十分なものとなった感じがする。パソコンに頼らず、話の流れを遮らず、さらに深まりを持たせるような構成・提示資料を考えればよかったかと思う。私の班のメンバーは、積極的に国際理解に関わりたいたいとっていて、なおかつ自分が何かアクションを起こさなければと感じている方がほとんどであった。その意味でこれから自分自身がどうしていきたいかという意欲的な話し合いがなされ良かったと思う。ただ、開発教育のベテランの先生からは、子どもたちにこれからの中国との関係を考えてもらいたいという、私の意見が人任せのように聞こえるとの意見をいただいた。私は教員としての自分が一番しなくてはならないことは、国際的に通用するような人作りだと思っている。今回の参加者が、話し合いを通して様々な意見を自分に取り込みながら、おのおの国際理解のスキルを高めることができたのではないかと思う。(MT)
 - 私の班には中国からの留学生(温さん)がいたので、私自身が見て感じた中国と温さんから見た故郷

(中国)との共通点や違いなどを中心に話を進めた。温さんが日本に来る前、友人から「東京の人は冷たい」と言われて、そんなことはないと思っていたが東京で道を尋ねたら「なぜ俺に聞く」と言われ、やっぱり友人の言った通りだと思ったという話から、イメージと実際について、そして異文化理解の話になった。メディアによる作られたイメージ(プラス面もマイナス面も)と実際は違うという認識が必要→メディアリテラシー。海外に行けば文化の違いが大きいので異文化ということは分かりやすいが、自分以外の人と関れることが実は異文化理解になっている。(KM)

今回はこの講座に参加していただき、ありがとうございます！
一緒に中国のことを考えてみましょう！

近くて遠い国、隣国としての中国

講座の大まかな流れ

はじめに

- なぜ、中国に？

……JICAの「教師海外研修」に応募して、見事(?)選ばれたのです。しかし、旅行が目的ではなく、旅行後の還元(まわりのみなさんに伝える)が目的です。そうです、今日のために中国で研修してきたのです！

次に

- 「中国」を話題にして、自分の「中国度」を確かめてみましょう。
- グループの力を生かしながら、中国について「学び合い」ましょう。

最後に

- 講座に参加した成果を振り返りましょう。

〈資料〉

中国のどこを回ってきたのか、どんなことを感じてきたのか？簡単にまとめてみました。

北京 (8/3 ~ 8/5)

- ① JICA中国事務所 …………… 国際協力、人間愛、隣人愛
- ② 北京市下水処理場…………… 水環境、各国の協力
- ③ 中国で活動するボランティアのみなさんと交流
…………… 現実と向き合う、着実に努力する人間のすばらしさ
- ④ 視覚障害者のみなさんのために…………… 離れているから理解が進まない、
(視覚障害者も) 自分のできることを責任をもって
- ⑤ 労働者の安全を守るために日中の協力
…………… 安全衛生意識は小中学生のうちから
- ⑥ 壮大な中国文化…………… 日本とのつながり

武漢 (8/6、8/7)

- ⑦ 一石二鳥の植林事業…………… 緑の銀行

宜昌 (8/8)

- ⑧ 日本語を学ぶ大学生との交流 I …………… 教育に対する考えに感動、上手な日本語

恩施 (8/9、8/10)

- ⑨ スケール大きな三峡ダム……………川を大型船、電源=発展のため
- ⑩ 中国の看護の向上のために……………綿密な計画と日々の`笑顔、
- ⑪ 日本語を学ぶ大学生との交流Ⅱ……………日本や日本語に関わりたい(夢、希望)、一生懸命勉強

上海 (8/11、8/12)

- ⑫ リニアに乗って……………430km/h、最先端の科学技術を取り入れるすごさ
- ⑬ 福島県上海事務所……………福島県の外国の窓口(交流)
- ⑭ 洋服工場で……………社長ご夫妻は二本松の方々、現実と未来を見通す力

この旅行から学んだこと

<p>中国のすばらしさ</p> <p>○エネルギー ・交通(車、電気自転車) ・生活(朝→夜遅くまで) ・食文化(素材を生かす) ・建設ラッシュ ・若者の活躍 ・素朴さ、優しさ ・学生のすばらしさ(明朗活発、明瞭) ※ごみ※われ先に</p>
<p>JICAのみなさんのすばらしさ</p> <p>○親切、懇切丁寧 ○時間を生かす ○人材を生かす ○場を逃さない ○朝早くから夜遅くまで</p>
<p>人間のすごさ</p> <p>○探求心 ○好奇心 ○開発力 ○貧困の中のたくましさ</p>

この研修で、私たちもいろいろ見て考え、経験し考え、学んできました！
 多くの方の考えをお聞きして、さらに学びたいと考えています！

<p>感想をお聞かせ下さい。 この講座に参加した成果を振り返り、中国や国際理解に対する考え方をまとめましょう！ 変化はありましたか？</p>	<p>氏名</p>



よりよい明日を、世界の人と。

独立行政法人 国際協力機構



LIBE